

「伝え合う力」の育成を目指した指導の工夫

～ 説明的文章の学習を通して ～

那覇市立上間小学校教諭 黒島 実千代

I テーマ設定の理由

これからの国際化社会の中で、生きて働く国語の力を身につけるためには、さらに相手や目的を強く意識して生活に役立つ国語の力を育成していくことが求められる。

小学校学習指導要領では、国語科の目標を「国語を適切に表現し理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに思考力や想像力及び言語感覚を養い国語に対する関心を高め国語を尊重する態度を育てる。」と述べている。

このことは、第一に国語の能力の根幹となる、国語による表現力と理解力とを育成することが国語科の最も基本的な目標であること、第二に互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う能力の育成を重視することなど、「伝え合う力」を高めることを明確に示している。

領域構成においては、従来の「A表現」「B理解」「言語事項」の2領域1事項から、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」及び「言語事項」の3領域1事項に改められた。これは、国語の力を調和的に育てる為に、3領域を効果的に関連させ、それぞれの特性を活かしながら児童主体の言語活動を活発にし、言語の教育としての国語科の目標を確実かつ豊かに実現するためである。

これまでの授業を振り返ってみると、児童の説明的文章の学習に対する興味・関心は物語文の学習より低く、苦手意識を持っているといえる。作文や日記など書くことに関しては、意欲的に取り組むが、接続詞や言葉の使い方は十分といえない。また、いろいろな話題に関心を持ち始め、休み時間は楽しそうに話したり聞いたりしているが、自分の考えをまとめたり意見を述べたりする場面になると話しの中心がずれたり断片的になったりしてうまく伝わらないことが多い。

そこで、説明的文章から学んだことや、教材への興味関心を活かしながら、自分の考えを提案文として書き、書くことで焦点化された自分の考えを友達との相互評価によってさらに深めたり、高めたりできるようにさせたい。また、書いた提案文は、友達や保護者へポスターセッションを通して発信していくことで伝え合うことの良さや楽しさを味わわせていきたい。

その際「読むこと」と「書くこと」の二つの領域を関連させた単元構成の工夫や、お互いの良さを認め合い高め合っていける相互評価の工夫などを取り入れて指導していきたい。

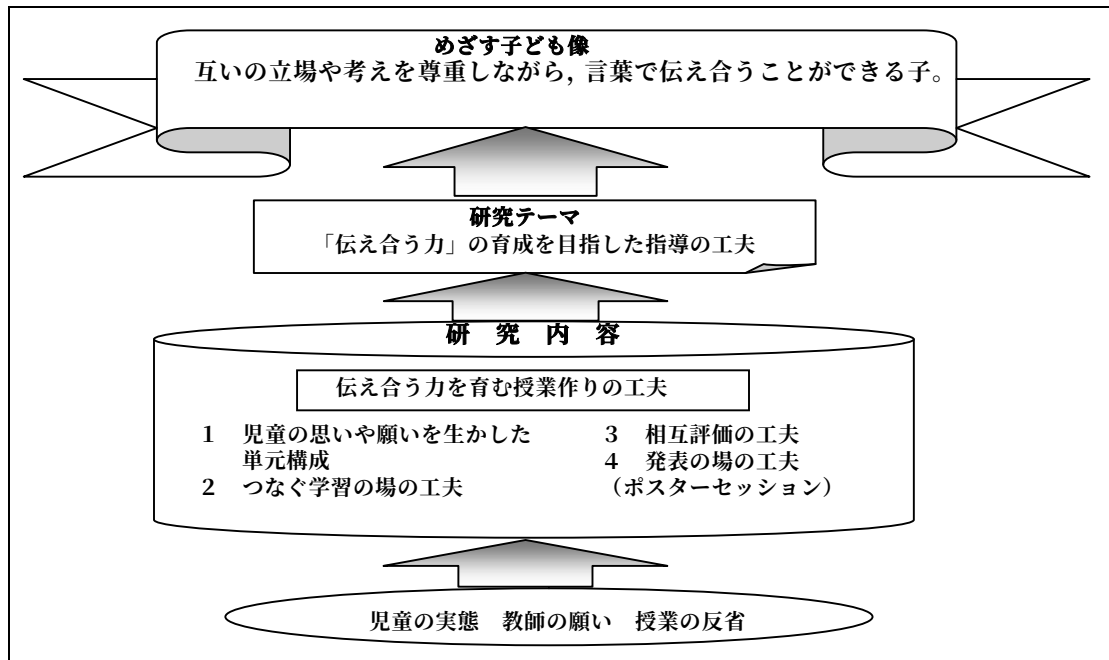
II 研究目標

「伝え合う力」を高めるために説明的文章を主体的に読み、自分の思いや考えを書いていくことで確かなものにし、筋道を立てて伝えることができるようにするための指導方法の工夫について研究する。

III 研究方針

- 1 「伝え合う力」を育成するための指導の工夫について理論研究する。
- 2 学習意欲を持たせ「伝え合う力」を育てるための単元構成の工夫をする。
- 3 読み取ったことを生かし自分の考えを書いて伝えるための指導を工夫する。

IV 研究構想図



V 研究内容と方法

1 「伝え合う力」の育成とは

『伝え合う力を育む指導細案』（瀬川榮志著）によると、「伝え合う能力は、お互いの思いや考えを寄せ合い、問題点や共通点、お互いの立場などを分かり合おうとする態度を含めた能力であり、表現したり理解したりする力をもとにして、言葉で伝え合う力をいう。また、正確に適切に話す・聞く、書く、読む力を育てることが求められる。」とある。

つまり、「伝え合う力」を高めるということは、言葉を正確に理解したり適切に表現したりする力をつけていくことであり、互いの立場や考えを大切にする児童を育てることであると捉える。

児童は、説明的文章を読んで生じた興味・関心や、筆者の書き方の工夫を活かして提案文に書くことで、自分の考えを明確にしていき、友達と提案文を交流し相互評価をしていくことで、お互いの良さに気付いたり感じ方や考え方の違いに気付いたりすることができるであろう。書いた提案文は、ポスターセッションで友達や保護者に向けて発表していくことで、伝え合うことの楽しさや喜びを味わわせ、共有できるようにしていきたい。

2 「伝え合う力」を育む授業作り

(1) 単元構成の工夫

① 児童の思いや願いを活かした単元構成について

児童が学習活動に見通しを持ち、意欲を持って取り組み、伝え合う楽しさや良さを実感することができるようにするために単元構成を工夫する。児童の思いや願いを活かして、だれにどんな方法で何を伝えていくかなどについては、児童の声「友達や先生に伝えたい」「お父さんやお母さんに伝えたい」「絵や文を書いて伝えたい」などの中からも取り上げて単元を児童と共に構成していく。単元構成の工夫の視点として、児童に学習の目的意識、相手意識、方法意識を持たせていくことは重要であると考えからである。また、学習活動に「読むこと」「書くこと」が相互に関連し、相乗的な効果をあげるよう

に、単元を組み立てていく工夫も必要である。

このように児童の思いや願いを活かしながら単元を構成していくことで、興味・関心を持って主体的に学習に取り組むことができ、伝え合う楽しさや喜びを味わうことができるであろうと考える。

②「読むこと」と「書くこと」をつなぐ学習の場の工夫（以下「つなぐ学習の場」と使う）

「読むこと」から「書くこと」へ「つなぐ学習の場」とは、読み取りの学習で学んできた教材を利用して、筆者の書き方の工夫といった表現の部分に目を向けさせ、自分の表現力に活かしていくための学習の場である。

文章読解の過程で出てきた言葉や表現を振り返り、筆者の論じ方の工夫に目をつけさせることで、自分の表現に活かしていくことを目指している。指導過程は、大きく「読む→つなぐ→書く」の三つに分けて位置付ける（表1）。

指導に当たっては、単元の指導内容を明確にし、それに基づいて学習の焦点化を図るようにする。本単元では、表現の工夫に目を向けさせて「書くこと」へつないでいく。また、「つなぐ学習の場」だけでなく「読むこと」や「書くこと」の中でもたえず筆者の書き方の工夫を振り返る場を作っていくようにする。

「読むこと」と「書くこと」の間に「つなぐ学習の場」を設定したことで、筆者の書き方の工夫や表現力に目を向け、自分の表現の中に取り入れていくことができるであろうと考える。

表1 単元の学習指導過程

学習の流れ	学 習 内 容
読 む こ と	①学習課題を設定する。 ②概略を捉える。 ③くわしく読み取る。 ④読み取ったことをまとめる ⑤読み取ったことについて感想や意見を持つ。
つ な ぐ 学 習 の 場	学習してきた教材を利用して筆者の書き方の工夫といった、表現に関する部分に再度目を向けさせ、自分の表現に活かしていく。 ①筆者の表現技法を振り返る。 ②「点字を通して考える」の学習教材から、筆者の書き方の工夫を見つける。 ③教材文の論の構成を振り返る。「改良したい物」「悪い所」「改良した物」「良くなった所」 ④筆者の書き方の工夫や表現の仕方をまとめる。提案文を書く活動につなぐため、筆者の書き方の工夫や表現の仕方をワークシートにまとめる。 《本教材で取り上げる表現事項》
	文 章 構 成 教材文の中で学んだ論の進め方
	問 い かけ の 文 ～でしょうか。（読み手に問題意識を持たせ文章への興味を高める。）
	接 続 語 けれども（逆説の言い方） ですから（順接の言い方） また （累加、前のことに付け加える） そして （前を受けて次につなぐ） そこで （前提を表す）
	指 示 語 こうして （述べてきた段落を指してまとめる述べ方） このように（複数の事実を指し、集約的にまとめる述べ方） これ、どの、それ、その、など
	文 末 表 現 「～のです。」（事実の強調、断定的な述べ方） 「～でしょうか。」（柔らかい文末表現で読み手に考え 「～でしょう。」を促す述べ方。） 「～みて下さい。」
書 く こ と	①身の回りを見つめ直しアイデア探しをする。 ②内容を構成する。 ③内容を記述する。 ④グループで相互評価する。 ⑤推敲する。

自分の思いや考えをポスターセッションで伝える

(2) 読んだことを活かして、書いて伝える工夫

①提案文を書く工夫

自分の思いや考えを相手に伝えるために、提案文に書くことで調べたことや考えたことを整理したり明確にしたりすることができ、自信を持って述べていくことができるであろうと考える。そのためには、どのように提案文を組み立てていったら相手に的確に伝えることができるかを工夫することが重要である。

図1のワークシートでは、身の回りや社会に目を向け、だれもが暮らしやすい社会を築くことに向けて自分の考えを焦点化していき、図2の構成表で「改良したもの」「良くなったところ」「悪い所」「改良したいもの」といった4つの視点でまとめていけるようにする。

これは、事柄ごとのまとまりを意識して考えることができるようにするためであり、段落や段落相互の関係について考え、自分の考えを明確にするためである。その際、文章の構成や段落の役割を併せて指導したり、中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えて文章を正しく読むことと関連させて指導したりしていくようにする。

このような構成表を活用することにより、視点を持って書く内容を整理したり、事柄のまとまりを意識して考えたりすることができ、伝えたい内容が整理され、文の組み立てや段落相互の関係について考えることができるであろう。

だれもが暮らしやすい社会になるように考えよう	
しせつや道具、町の中、家の中をよく見てみよう。 道路、車、バス、スーパー、学校、公園、映画館、野球場、遊園地、動物園など	いろいろな人
バリアフリー	
1 どんな施設や道具があるととっても便利になるかな？ ()	
2 どんな工夫が必要かな？ ()	
3 アイデアの出し方 ・インタビュー、アンケート（困っていることを聞く） ・調査する（どうすれば便利になるか） ・アイデアを出す	

図1 アイデア探しワークシート

良くなった所	改良したもの	悪い所	改良したいもの	☆自分の考えが明らかにできるように段落ごとの関係を考えて書こう。	くらしやすさを求めてアイデアを提案しよう
子どもでも持てるように、道にまっすぐなように。	いつでもナビがつかえるように、キーホルダーにして、音でもつけた。	大人しかもてない。車や、けいたいにかついでない。	ナビ		

図2 構成表

②相互評価の工夫

グループによる相互評価は、友達同士で意見の交流をすることにより、友達から多くの刺激を受け、お互いの良さを認め合ったり高め合ったりすることができると思う。

他者との相互評価によって、個人では気付かなかった点や他人の見方、感じ方、考え方に気づき、自分の考えを見直したり深めたり明確にしたりすることができるからである。また、友達のアイデアを聞くことで、さらに新しいものの見方ができ、考えが広がるであろうと考える。

相互評価が活発に進められるようにするために、児童はあらかじめ調べたことや自分の考えを提案文に書いておき、自信を持って伝えられるようにする。また、グループの中に司会役の児童を置き司会用の手引きをもとに、自分たちで話し合いを進行していく。

グループでの相互評価では、「書き方のどこがすばらしいのか」「どこを改善するともっと分かりやすい表現になるのか」などお互いにアドバイスができるように、視点を持って話し合いに参加し、発表を聞く時はメモを取って伝えていけるようにする。お互いの意見や感想の交流で、話し手や聞き手の双方向的な話し合いができ、高め合うことができる。

グループでの相互評価後は、各グループで話し合われたことをクラス全体で共有するために、全体の振り返りの場を設定する。全体の振り返りの場では、各グループで出された友達のアイデアの良さや、書き方の良さをクラスに広めたり、学んだ表現を振り返ったりしながら、話し合ったことをより確かなものにしていく。

このような相互評価を取り入れることによって、友達の見方や考え方を学んだり、自分の提案文を見直したりすることができ、自分の思いや考えを表現する力を高めていくことができるであろうと考える。

(3) ポスターセッションを取り入れた指導

ポスターセッションによる発表は、どの子も緊張せず双方向の対話形式で発表を進めることができる有効な発表の方法である。ポスターセッションによる交流で、双方向のやりとりを充実させることができれば、さらに伝え合う楽しさや良さを実感することができるであろうと考える。

子ども達は、「点字を通して考える」という学習材から学んだ、「バリアフリー」や「福祉」に関して、一人ひとりが調べる活動を行い、自分の考えをそれぞれの提案文にまとめ、視覚的に補助する意味で絵でも表現し、それをもとに発表していく。(写真1)

一人でポスターセッションを実施する良さとして、全員が発表の場に立てることや、グループでの取り組みに比べ、発表のための準備時間が短縮でき、より多くの友達の発表を聞いたり、自分の発表をたくさんの友達に聞いてもらったりすることができる。

保護者に向けて自分の提案文をポスターセッションで発表する活動では、保護者との質問や感想などのやりとりが期待できる。事前に保護者に活動のねらいや内容を伝え、参加をお願いしておくことで、保護者を巻き込んだ学習の場を作り出すことができると考える。

「点字を通して考える」 4年 名前()	
友達のアイディアを聞いてメモしよう。	
☆ 考え方のいい所	☆ 書き方や表現のいい所
しゃべる自動はん売機を目が見えない人のために考えていたところ。	話をまとめる時に「このように」というつなぎ言葉を使っている。
点字がボタンの木黄についているところ。	また「つまり」というつなぎ言葉を使っている。
かけたい電話にも点字をつけて目が見えない人が分かるように考えたところ。	ぎゃくのことを言う時「けれども」を使っている。
	「なんです」という言い方。
	といかけ文を使っている。
	便利なこと不便なことが書かれている。
感想 目の不自由な人のことを考えて、アイデアをいあんしていたのですね、いいアイデアでした。いいアイデアでした。ていあん文の書き方の工夫もいっぱいあってよく伝わりました。	

図3 相互評価ワークシート



写真1 ポスターセッション

VI 授業実践

1 単元名 暮らしやすさを求めて、アイデアを提案し伝えよう

2 教材名 「点字を通して考える」

「暮らしやすさを求めて、アイデアを提案しよう」 (学校図書 4年下巻)

3 単元目標

- (1) 書かれている内容をとらえ、筆者の書き方の工夫を見つけながら読むことができる。
- (2) 自分の考えが明らかになるように、段落ごとの関係を考えて書くことができる。
- (3) ポスターセッションを通して、調べたことなどについて筋道を立てて話したり話の中心に気をつけて聞いたりすることができる。

4 単元について

(1) 教材観

本教材は、知識欲が盛んになり、社会的な視野の芽生えが見られるようになった4年生の子ども達の興味関心を大切にしながら、「読むこと」「書くこと」さらに「話すこと・聞くこと」の力を育てることをねらいとして構成されている。

第一教材の「点字を通して考える」で、説明的文章の文章構成の工夫や内容を的確に読み取り、学習して生まれた興味・関心を生かしながら第二教材の「アイデアを提案しよう」で児童が調べたり考えたりしたことを、ポスターセッション形式で伝えていく。

相手に分かりやすく伝えていくために、説明的文章で学んだ文章構成の工夫や表現の工夫を使って、自分の考えが明確になるように叙述し、友達と提案文を発表し合って内容や書き方の良いところを伝え合っていくことで、お互いの良さを認め合い自分の考えや表現を高め合っていくことができるであろう。

(2) 児童観

学級で行ったアンケートによると、46%の子が説明的文章の学習は苦手と答えている。その理由は「どう読んでいいのかわからない、文が読み取りにくい」などである。「書くこと」に関しては、32%の子が「どう書いていいかわからない、書くことが見つからない」という理由で苦手と回答している。また、「話すこと・聞くこと」に関しては、52%の子が「言葉が出てこない、自信がない、恥ずかしい」という理由で、自分の考えや意見を述べたりすることは苦手と答えている。

これらの実態を踏まえ、本単元では「点字を通して考える」の説明文を通して学んだ筆者の書き方の工夫を活かして、自分の思いや考えを提案文に書いていき、書いた提案文を友達と相互評価することで互いの良さを認め合い、高め合っていくことができるようにしたい。そうすることで、筋道を立てて自分の考えを述べることができ、自信を持って話すことができるであろう。

(3) 指導観

指導に当たっては、説明的文章の学習で学んだ文の構成、接続語、指示語、問いかけの文、文末表現といった筆者の書き方の工夫を自分の表現に活かして書き、筋道を立てて相手に分かりやすく伝えていけるようにする。

自分の考えたアイデアを、友達や家の人に伝えるという相手意識や、分かりやすく伝えるという目的意識をしっかり持たせながら、学習を進め、調べたり考えたりしたことを提案文にまとめさせたい。

書いた提案文は、グループの友達同士で交流し、内容や書き方の良いところや、質問・感想を伝え合うといった相互評価を行うことで、さらに自分の考えを見直していけるようにしたい。ポスターセッションでは、伝え合うことの楽しさや喜びを共有できるよう、保護者へ学習のねらいを説明し協力してもらうようにしたい。

5 本時の学習

(1) 本時の目標 友達と提案文を発表し合い、内容や表現の良い所や、直すともっと良くなるところを伝え合うことができる。

(2) 授業仮説 友達と相互評価をすることで、提案文の書き方やアイデアの良さや、直すともっと良くなる所を伝え合うことができ、お互いの良さを認め合い・高め合うことができるであろう。

(3) 本時の展開(14 / 17)

展開	学 習 活 動	・指導上の留意点 ☆教師の支援	○評価と方法
導入 8分	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習のめあてと流れを確認する。 ◎自分のアイデアが伝わるように発表しよう。 ◎友達の提案文の書き方の良いところや工夫を見つけて伝えよう。	・前時の学習を振り返らせ、本時のめあてにつなげる。 ・友達のアイデアの良いところや書き方の工夫を伝え合うことを確認する。	○話し手や聞き手のめあてが確認できる。 (観察・発表)
展開 32分	3 グループでアイデアを提案し合う。 ○1人目の発表を聞く。 友達のアイデアや書き方の工夫を伝えたり、質問や感想の交流をしたりする。  写真2 相互評価の様子 4 振り返りタイム。 ○グループでの交流の様子を全体で共有する。 5 グループでアイデアを提案し合う。 ○2人目の発表を聞く 友達のアイデアや書き方の工夫を伝えたり、質問や感想の交流をしたりする。 6 振り返りタイム。 ○グループでの交流の様子を全体で共有する。	☆友達の提案の良いところを伝えたり、アドバイスができるように友達の提案文のコピーを準備する。 ・グループの司会が話し合いを進めるようにする。 ☆机間指導をしながら話し合いがうまく進められないグループに助言する。 ・グループの話し合いで出された友達の良かった点や意見などを全体で共有したり、筆者の書き方の工夫を全体で、振り返ったりする。 ・司会、提案者、アドバイザーを交換してグループ交流を進める。 ・グループの話し合いで出された友達の良かった点や意見などを全体で共有したり、筆者の書き方の工夫を全体で、振り返ったりする。	○友達の提案文を聞き、アイデアの良さや書き方の工夫を見つけて伝えることができる。 (観察・発表・ワークシート)  写真3 振り返りタイム
終末 5分	7 本時のまとめをする。 (1)振り返りカードに記入する。 (2)今日の学習を振り返っての感想を発表する。 8 次時の学習を確認する。	・授業を振り返って自分が考えたり感じたりしたことを振り返りカードに書く。	○ 学習の振り返りをすることができる。 (発表、振り返りカード)

VII 結果と考察

【検証1】

「読むこと」と「書くこと」を「つなぐ学習の場」で、学習材の筆者の書き方の工夫を再度見直すことによって、説明的文章を読んで学んだ表現を、自分の表現に活かすことができるであろう。

【結果1】「読むこと」と「書くこと」をつなぐ「つなぐ学習の場」を設定し、筆者の書き方や表現の工夫を見つけていき、文の構成の工夫や書き出しの工夫、接続語、指示語、文末表現といった筆者の書き方の工夫に目を向けさせていった。筆者の書き方の工夫をまとめた児童のワークシートは図3、つなぐ学習後に書いた児童の感想は図4の通りである。

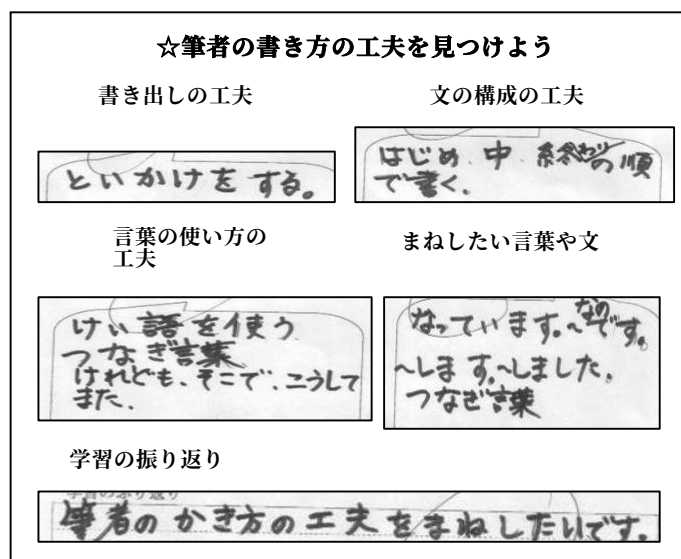


図4 N児の筆者の書き方の工夫を見つけるワークシート

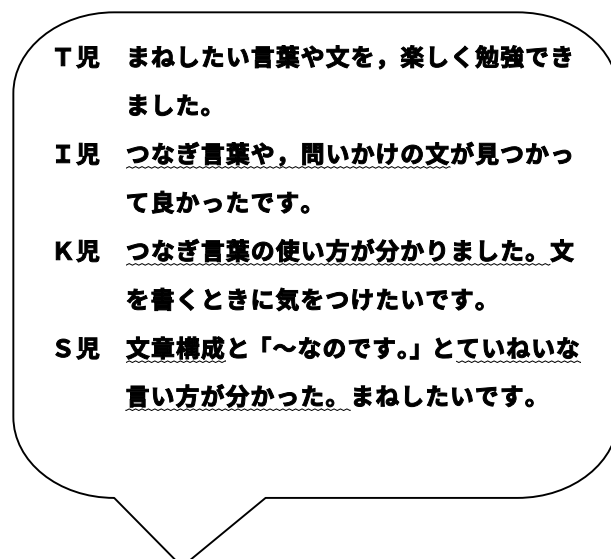


図5 授業後の児童の感想

【考察1】説明文を読む中でも筆者の書き方の工夫について学ばせていくが、さらに説明的文章を読む場面と、自分の考えを書いていく場面をつないでいくために「つなぐ学習の場」を設定する。

「つなぐ学習の場」では、初めに全体で接続語や指示語が文章を読み取るために、また前後の関係をつかむために、そして相手に分かりやすく伝えるために重要な役割を果たすことを確認していく。次に各自で教科書教材を読み返し、文章構成、書き出しの工夫、接続語、指示語、文末表現、といった筆者の書き方の工夫を見つけていき再度全体で確認していくようにする。

こうして学習した後に各自でまとめたワークシート（図4）では、N児は説明的文章で学習した文章構成や問いかけ文で始まる書き出しの工夫、接続語の「けれども、そこで、こうして、また」、文末表現の「～なのです。」「～ます。」などを見つけている。

授業後の児童の感想（図5）では、学習前のアンケートで書くことは苦手と答えていたT児やI児から、「楽しく勉強できた。」「つなぎ言葉や問いかけの文が見つかった。」と、書くことへの意欲や関心が高まったことが伺われる感想があった。また、K児やS児から「つなぎ言葉の使い方が分かった。」「文章構成や、ていねいな言い方が分かった。」など、表現や言葉の使い方に対する理解を深めたことが分かる感想も見られた。

これらのことから、提案文を「書くこと」に活かすための「つなぐ学習の場」を設定することで、児童はこれまで学習してきた筆者の言葉や表現といった書き方の工夫に着目していくことができたと考える。自分で文を書いていく意欲や力につながったかどうかについては以降で引き続き検証する。

【検証2】

グループで相互評価する場を設定し、視点を持って話し合うことで、お互いの書き方の工夫について伝え合うことができるであろう。

【結果1】グループの友達と、お互いの書き方の工夫について伝え合うことができるようにするために、相互評価の場を設定する。グループでの相互評価には、アイデアや書き方の良いところ、アドバイスや感想などを伝えるという視点を持って望ませるようにする。このように、意図的に相互評価する場としてまた、「伝え合う力」を育む場として、グループ交流を設定した。

児童の話し合いの様子は図6の通りである。友達へどのような伝え合いがなされていたか、話し合いの様子を検証する。

【考察1】図6のBグループの相互評価の様子では、C1は提案者で、発表の後他の3人の児童が提案文の良い所やアドバイス・質問を述べている。

C2は、C1の提案文の中から「けれども、そこで、このように」といった、つなぎ言葉を使っている所に目を向け、伝えたいことが分かりやすくなっていることを指摘している。これは、つなぎ言葉が文相互の関係や段落相互の関係を示す手がかりになり、自分の考えを相手に分かりやすく伝える文章を書くために重要であることを意識した発言であるといえる。また、「～なので

す。」「～します。」といった丁寧な言葉遣い使いがされている所を見つけて伝えている。文の常態や敬体といった言葉遣いに目を向け、話し手の意図を感じたり、聞き手に対する思いを考えたりしているといえる。C3は、「問いかかけの文をつけたらどうか。」と、説明的文章教材で学んだ文の書き出しの工夫について、提案者にアドバイスをしている。これは、問いかかけ文を挿入することで読み手に問題意識や文章への興味・関心を高めるといった表現の工夫についてアドバイスしているといえる。C4は、「ボタンに点字が付いているのか。」という提案者のアイデアに関しての質問や、「目が見えない人のことを考えている。」という考え方のいいところに目を向けて伝えている。この質問を受けることにより、提案者はもう一度自分のアイデアについて補足が必要なることを意識することができた。さらにC3は、「自動販売機の便利な所と不便な所が書けている。」という提案者の論の進め方に視点を当ててその良さを伝えているといえる。

これらのことから、グループでの相互評価で双方向の伝え合いをすることにより、お互いの良さに気付いたり、相手に分かりやすく伝えるための述べ方や、表現の工夫に目を向けたりすることができたのではないかと考える。

C1は提案者、C3は、司会役

C3（司会）「○○さんの書き方のアイデアの良い所や書き方の良い所、アドバイスなどありませんか。」

C2「けれども、そこで、このように、などつなぎ言葉を使っている所が分かりやすい。」
（文中のつなぎ言葉について書き方の良い所）

C2「～なのです。～します。など丁寧な言葉使いがされていたので良かった。」
（文中の文末表現について、書き方の良い所）

C3「問いかかけの文をつけたらどうですか。」
（書き出しの工夫についてのアドバイス）

C4「ボタンを押したらって書いているけど、そのボタンにも点字が付いているのですか。」
（アイデアについての質問）

C1（提案者）「はい、自動販売機の全部のボタンに点字がついています。」
（相手の質問を受けて答えている）

C4「目が見えない人のことを、考えているのすごいいいと思いました。」
（考え方の良い所）

C2「なんで自動販売機のアイデアが浮かんだのですか。」
（アイデアへの質問）

C1「お家の近くにあるから、いつも見ているので浮かびました。」
（相手の質問を受けて答えている）

C3「自動販売機の便利な所と不便な所が書かれているので良かったです。」
（書き方の良いところ）

[以下省略]

図6 相互評価の様子

〔結果2〕グループでの相互評価が活かされるように、友達からのアドバイスを振り返り、自分の提案文を見直していく時間を設定して推敲していく。必要に応じて教科書のモデル作文の活用や、個別指導を行うようにする。その結果、見直したS児の提案文は（図8）の通りである。相互評価によってどのような効果が表れたのか、S児が書いた提案文の相互評価前後（図7、図8）の変容を検証する。

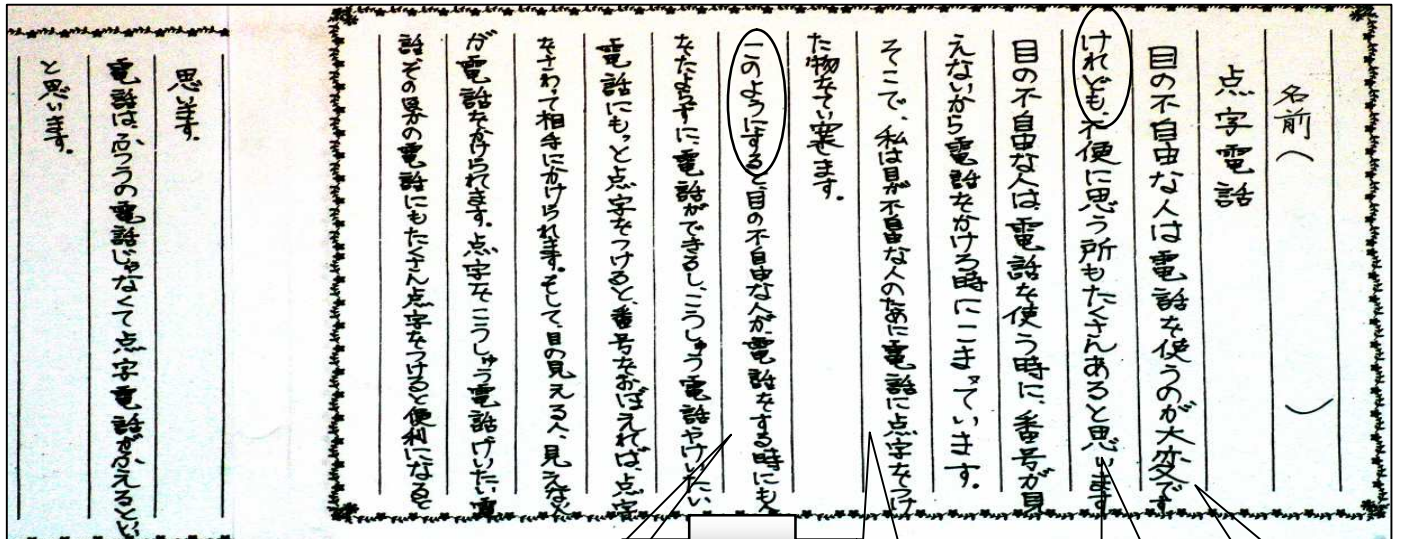


図7 相互評価前の提案文

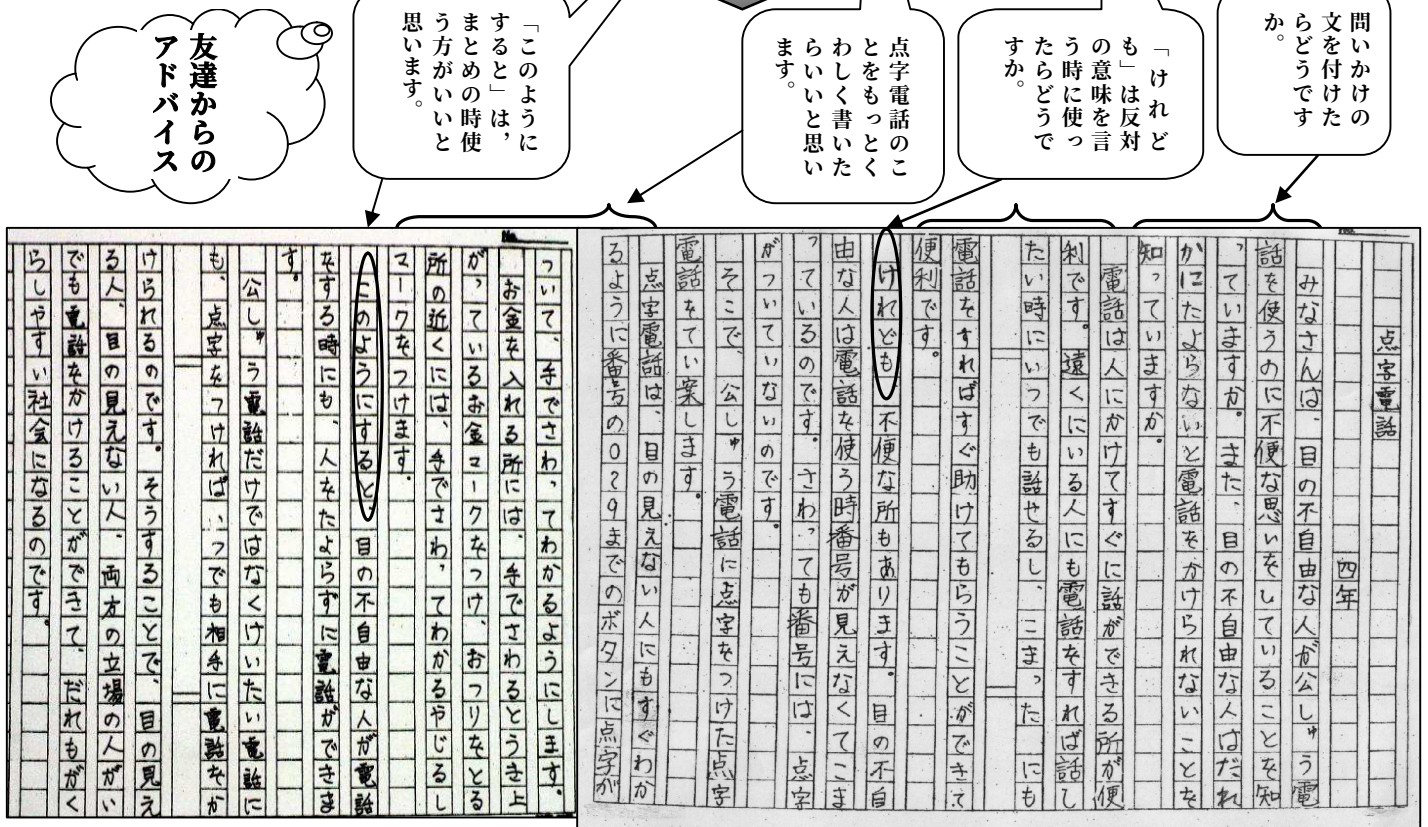


図8 相互評価後の提案文

〔考察2〕S児の相互評価前後の文を比較すると、友達からアドバイスされていた問いかけの文を、相互評価後に付け足している。問いかけの文が入ることによって、読み手に問題意識を持たせ、文章への興味や関心を高めているといえる。「けれども」の使い方は、（不便→けれども→不便）から（便利→けれども→不便）に変容した。「けれども」の使い方が前の文の逆説になり前に

述べたこととは逆の関係にあることを表すことに気付いて直しているといえる。また、「けれども」の前に電話の便利な点を書き加えたことにより、便利な点もあるが不便な点もあるということが相手に伝わる文になっているといえる。

「このようにすると」の使い方は、相互評価後に点字電話のアイデアについて自分の考えているイメージをさらに膨らませて書き足しており、それらを集約的にまとめる形で使うように直している。これらのことから、接続語が段落相互の関係を捉える働きをし、文と文の意味のつながりを明確にさせるために重要なことや、指示語が文章の内容を正確に読み取り何を指しているのかを的確に捉えるために重要であることが分かったといえる。

文末表現については、友達から直接アドバイスはなかったが、グループでの相互評価によって文末を見直す視点が生まれ、自分で推敲することができた。「相手にかけられます。」から「かけられるのです。」に変容し、「番号が見えなくて困っています。」は「困っているのです。」に変容している。「～なのです。」という表現をすることで、事実を強調し読み手に強い思いを伝える言い表し方に書き換えていることが分かる。

そして、「目の見える人見えない人」という表現を、相互評価後は「両方の立場の人」という表現で書き表している。これは、言葉を吟味して文章の中に使おうとしていることや、「だれもがくらしやすい社会になるのです。」という自分の主張へとつながっているといえよう。

これらのことから、グループでの相互評価は、友達同士で提案文の書き方や考えの良い所を伝え合い、お互いの良さを認め合ったり、高め合ったりすることができ、他者からの意見によって、自分のアイデアをもう一度見直し、相手に伝えたいことを分かりやすく書いていく工夫をしたり、考えをさらに深めたりすることができたのではないかと考える。

【結果3】児童の提案文の中に学んだことが活かされていたかどうかを文章構成、接続語、指示語、問いかけの文といった項目で調べた。調べ方は、児童の提案文を2人の教諭が個別に分析した平均値で表した(表2)。単元前後の「作文など書くことに関するアンケート」の結果は図9の通りである。「つなぐ学習の場」や相互評価の場を設定したことで、学んだ表現を自分の提案文に活かすことができたかどうかについて、また児童の「書くこと」に関する意識がどのように変容したかについて検証する。

表2 表現の工夫を取り入れた児童の割合

表現の工夫	表現の工夫ができた児童の割合
文章構成	92%
接続語	92%
指示語	94%
問いかけの文	89%

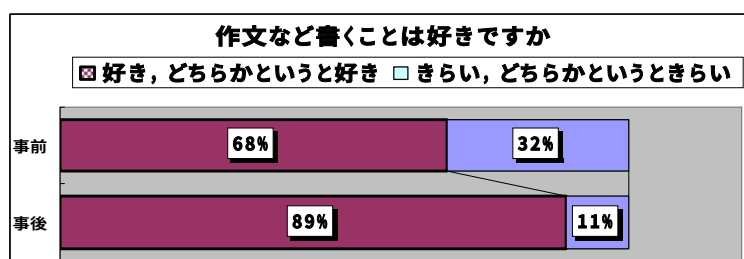


図9 作文など書くことに関するアンケート

【考察3】児童の提案文の中に学んだことが活かされていたかどうかを調べた結果(表2)では、文章構成、接続語、指示語、問いかけの文ともに約9割の児童が学んだ表現を自分の提案文の中に活かしていた。また、「書くこと」の意識がどう変わったかを見るために、学級の児童全員に本単元前後に行ったアンケート結果(図9)では、「書くことは好きですか」の設問に「好き、どちらかという好き」と答えた児童は68%から89%に増加した。「つなぐ学習の場」や相互評価の場を設定し、筆者の書き方の工夫を振りかえることで、筆者の表現や書き方の工夫を自分の表現に活かして書き、相手に伝わるように叙述していく意識につながったのではないかと考える。

検証3

保護者へ向けての発表の場を設定し、ポスターセッションを取り入れることにより、意欲を持って伝え合う活動に取り組むであろう。

【結果1】保護者に向けてポスターセッションで発表する場を設定し、全員が発表者となって自分の考えを伝えていった。図11は保護者から児童へ向けての感想である。図10の感想と、図12の「発表や話すことに関するアンケート」の結果から児童の伝え合う学習への意欲の変容を検証する。

○やってみて楽しいと思った。 ○またやりたい、やる気が出た ○お母さんが聞いてくれて嬉しかった ○発表や、感想、質問が言えた。 ○言葉のキャッチボールができた。	○皆さんのいいアイデアをぜひ、将来実現して下さい。 ○一人ひとりがしっかり発表してすばらしい話し合いの勉強だったと思います。
--	---

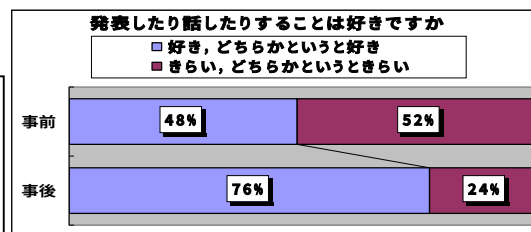


図10 児童の感想

図11 保護者の感想

図12 発表や話すことに関するアンケート

【考察1】ポスターセッションの学習後の感想（図10）では、「楽しかった。またやりたい。聞いてくれて嬉しかった。やる気が出た。」など、ポスターセッションの学習が伝え合うことへの意欲を喚起したことがわかる感想が見られた。また、「感想や質問が言えた。言葉のキャッチボールができた。」など、双方向による質問や感想、意見の交流が図れたことに充実感や満足感を持った感想も見られた。

保護者からは、学習後にアイデアや発表についての賞賛や励ましのコメントをもらうことで、児童の伝え合う学習への達成感や成就感を高め、自分の考えを伝えていくことへの喜びや楽しさへつながったものとする。学習後のアンケート結果では、発表や話すことが好きと答えた児童が、48%から76%に増えた。（図12）

これらのことから、自分の考えを相手に伝えていく活動や場を設定していくことは、「伝え合う力」を育むために有効であるとする。

VIII 成果と課題

1 研究の成果

- (1) 読み取ったことを活かして自分の考えを提案文に書く学習につなげたため、筆者の書き方の工夫を自分の表現に取り入れたり、相手意識を持って書き方を工夫するようになった。
- (2) グループでの相互評価を行ったことで、自分の提案文をもう一度見直したり、それぞれ異なった見方や考え方、感じ方ができることに気づいたり、お互いの良さを認め合ったり、違いを尊重し合ったりすることができた。その中で相手に分かりやすく伝えるための述べ方や、表現の工夫に目を向けることができたようになった。
- (3) ポスターセッションを取り入れ、保護者や友達に伝えるという場を設定したことで、意欲を持って提案文を書き、伝え合う学習に取り組むことができた。

2 今後の課題

- (1) 「伝え合う力」を育成するための継続的、系統的な指導計画の工夫
- (2) 具体的なアドバイスができるようにするための相互評価の工夫

《主な参考文献と引用文献》

「小学校学習指導要領解説国語編」	東洋館出版社	文部省	1999
「読む力を作文につなぐ説明文指導」	儀間朝善	明治図書	1985
「伝え合う力考える力をのばす授業づくり」	瀬川榮志監修	明治図書	2001
「キーワードでわかる新国語科」	小森茂	国土社	2000
「新観点別学習状況の評価基準表」	清水庄八	図書文化社	2002
「国語学力を高めるモデル学習指導案」	瀬川榮志	明治図書	2005